

首里城復興レポート Vol.5 (R3年4月～7月版)

沖縄県 特命推進課

首里城がつなぐ 「過去」から「未来」へ...



特命推進課公式Twitter



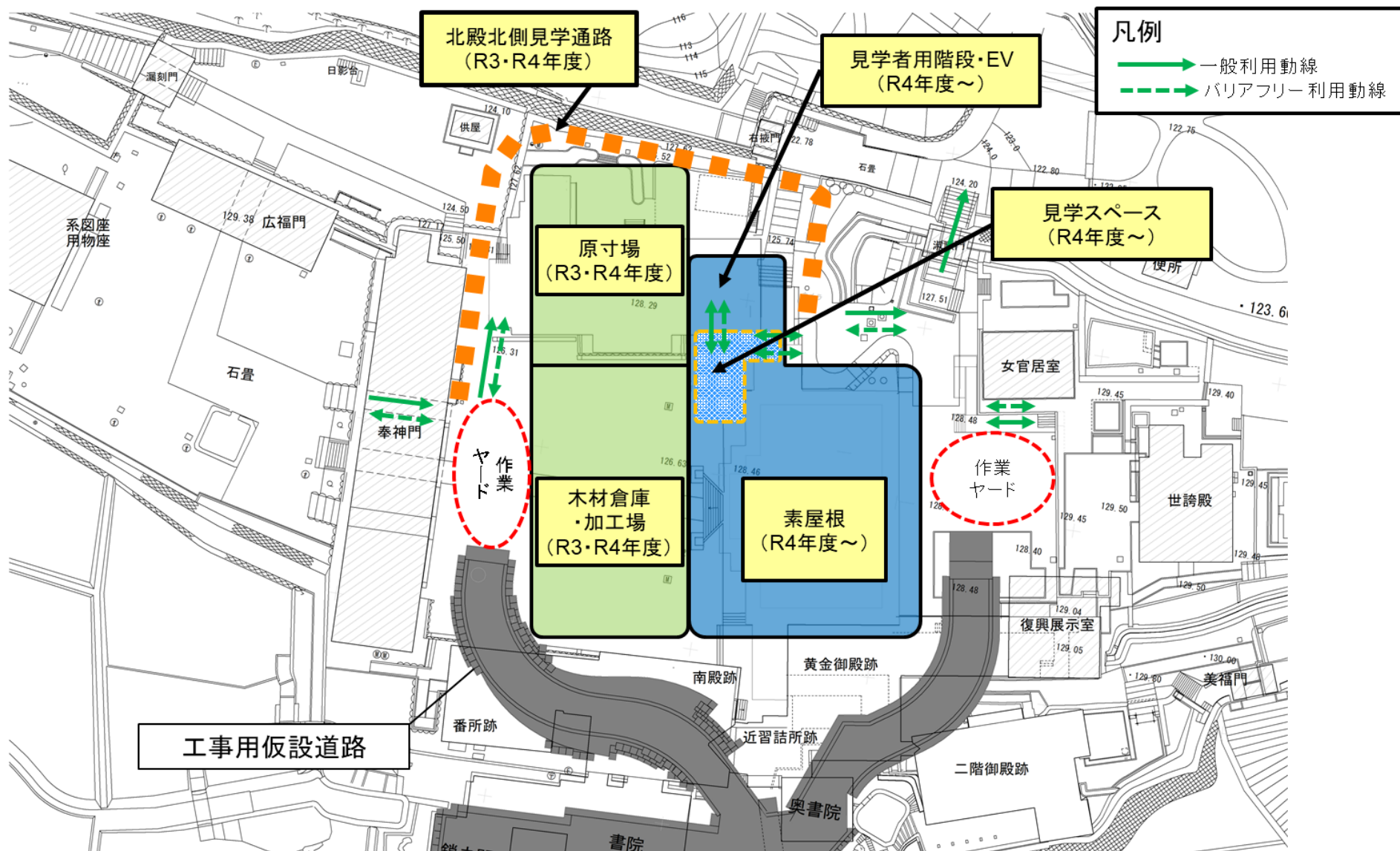
首里城火災による被害状況（令和元年11月1日時点）



ドローン写真（令和3年6月1日時点）



正殿復元に向けた仮設施設の整備について(R3・R4年度)



正殿復元に向けた仮設施設の整備について(CGイメージ)



※ | 詳細は現在調整中

目 次



1	県・国の動向（2019年10月～2021年3月）	1
2	首里城復元・復興に向けたスケジュール	3
3	寄附金の状況について	4
4	寄附金を活用した県の取組	5
5	首里城復旧・復興推進本部会議の開催	7
6	県産木材（オキナワウラジロガシ） の候補木の選定・環境対策等について	8
7	沖縄県工業技術センターによる首里城赤瓦の取組	10
8	SCSK株式会社とのDX協定締結	11
9	首里城公園管理体制構築検討委員会の設置	15
10	首里杜地区整備基本計画検討委員会の設置	16
11	中城御殿跡地整備検討委員会の設置	18
12	首里城扁額製作検討委員会の設置	19
13	第32軍司令部壕保存・公開検討委員会 第3回会合について	20
14	首里城復興基本計画	22

I 県・国の動向 (2021年4月～2021年7月)

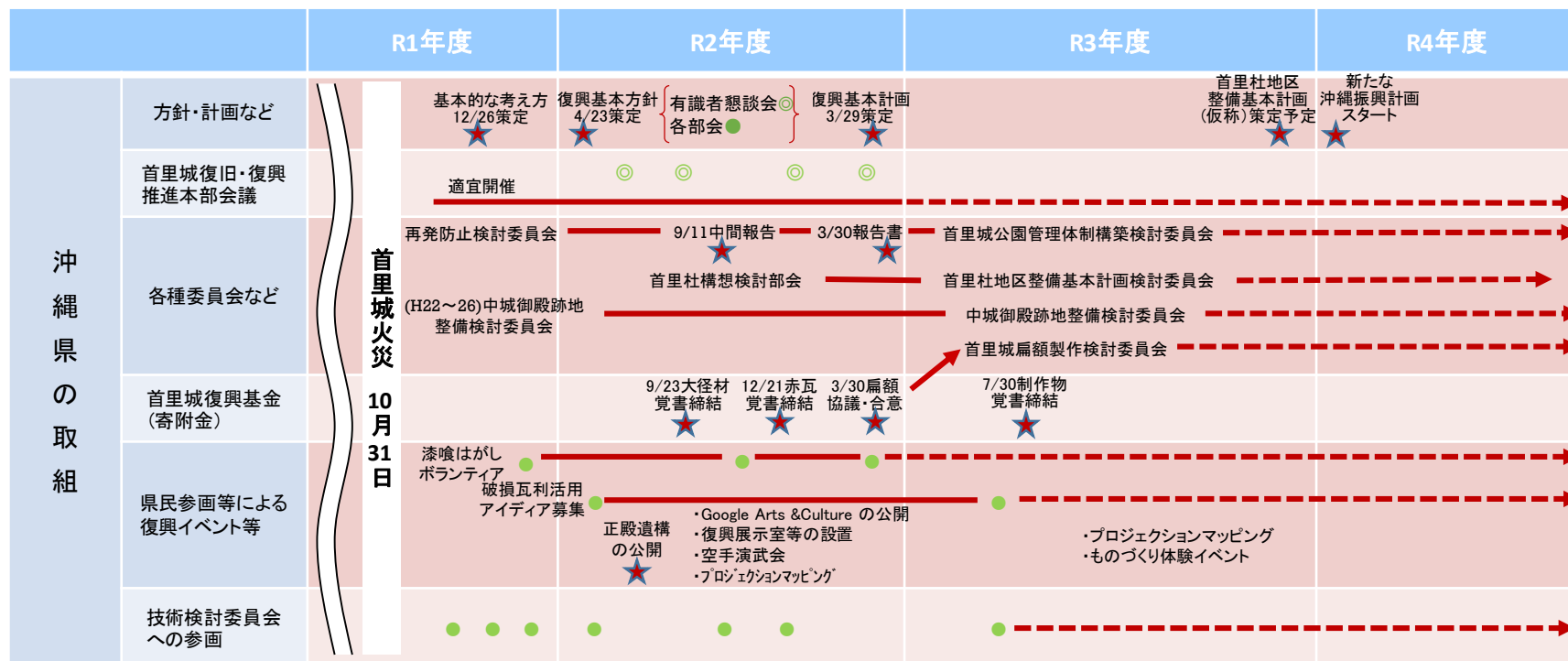
※関係主体欄の「美」は、(一財)沖縄美ら島財団

年月日		
2021年 3月20日 ～4月18日	国 県 美	首里城赤瓦の漆喰はがしボランティア再開
4月1日	国	第5回 首里城復元のための関係閣僚会議 幹事会
4月23日	県	「首里城火災に係る再発防止策(基本的な方向性)」を公表
5月20日	国	正殿復元工事に向けた新たな見学通路、 および仮設施設(原寸場、木材倉庫、素屋根)の整備を発表
5月25日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第1回 木材・瓦類ワーキンググループ会議 → 沖縄県から、県産木材(オキナワウラジロガシ)候補木の選定方法や環境対策等を報告
6月1日	県	沖縄県とSCSK株式会社が「首里城復興におけるDX推進に関する連携協定」を締結
6月2日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第1回 北殿・南殿等ワーキンググループ会議
6月7日	県	令和3年度 第1回 首里城復旧・復興推進本部会議(書面開催) → 首里城復興基本計画における基本施策の推進に向けた具体的な事業・取組として、 「首里城復興基本計画推進事業(70件)」を決定
6月9日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第1回 彩色・彫刻ワーキンググループ会議
6月14日～ 7月16日	県	首里城火災破損瓦等の利活用アイデア募集(令和3年度1次募集)
6月24日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第1回 防災ワーキンググループ会議

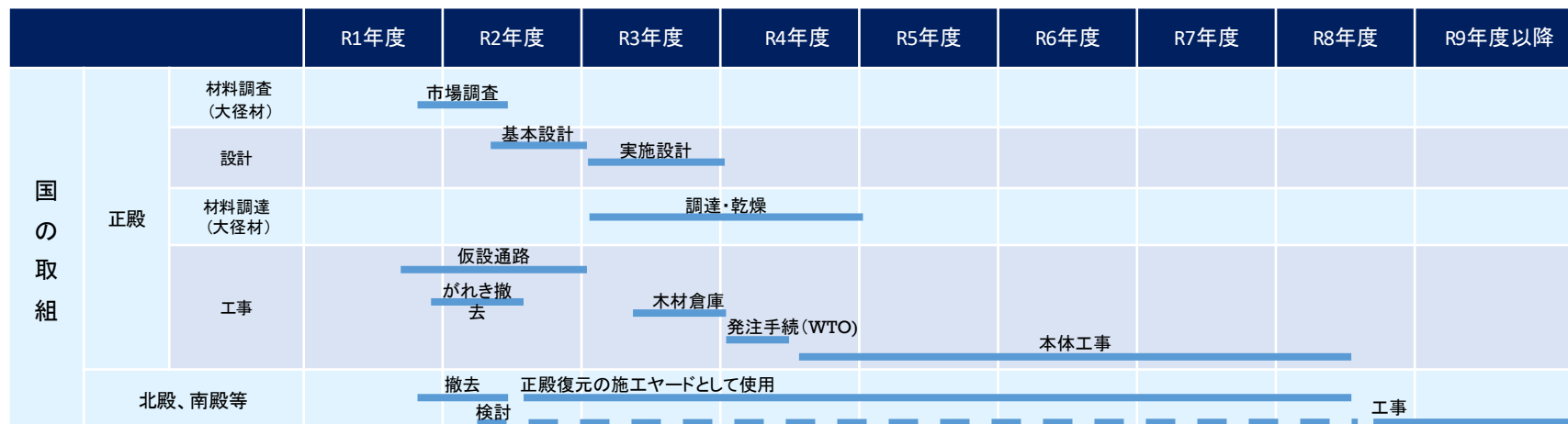
I 県・国の動向 (2021年4月～2021年7月)

年月日		
6月30日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第2回 木材・瓦類ワーキンググループ会議
7月7日	国 県	首里城復元に向けた技術検討委員会 第2回 彩色・彫刻ワーキンググループ会議
7月14日	国 県	令和3年度 第1回 中城御殿跡地整備検討委員会
7月15日	県	令和3年度 第1回 首里城復旧・復興ワーキンググループ会議
7月16日	国 県	令和3年度 第1回 首里杜地区整備検討委員会
7月19日	県	令和3年度 第2回 首里城復旧・復興推進本部会議 → 首里城復興基金(寄附金)を活用し、県が石彫刻等の制作物、木材(小径材、造作材)、赤瓦(せん瓦、雲型飾瓦)などを調達・製作することについて、国に協議を申し入れる旨を決定
7月20日	県	令和3年度 第32軍司令部壕保存・公開検討委員会 第3回会合
7月26日	国 県	令和3年度 第1回 首里城公園管理体制構築検討委員会
7月27日	国 県	令和3年度 第1回 首里城復元に向けた技術検討委員会
7月30日	国 県	「首里城正殿復元工事に用いる制作物の譲渡に関する覚書」を締結 → 7/19に申し入れた協議について合意

2 首里城復元・復興に向けたスケジュール



※ 国の取組については「首里城正殿等の復元に向けた工程表(2020年3月27日)」より抜粋



3 寄附金の状況について

沖縄県に寄せられた寄附金受入状況

5,282,111,435円 (令和3年7月末現在)

皆さまからのご寄附は、
「首里城復興基金の活用に関する方針」に基づき、
城郭内の正殿をはじめとした施設等の復元に活用します。
その内容は、「沖縄県公式 首里城復興サイト」等でお知らせします。
寄附金の申込・問い合わせは、
沖縄県 都市公園課ホームページをご覧ください。

沖縄県 都市公園課



☆これまでの復興レポートについては、
「沖縄県公式 首里城復興サイト」をご覧ください。



☆Twitterで首里城復興等に関する情報を発信中！



特命推進課公式Twitter



4 寄附金を活用した県の取組



寄附金活用のイメージ

 は活用が決定したもの

木材調達について

令和2年9月23日「首里城正殿復元工事に用いる大径材の譲渡に関する覚書」を締結
→ 首里城正殿に使用する木材の一部を県が調達することについて合意。令和3年4月事業開始

赤瓦調達について

令和2年12月21日「首里城正殿復元工事に用いる赤瓦の譲渡に関する覚書」を締結
→ 首里城正殿に使用する赤瓦について県が調達することについて合意。令和3年4月事業開始

扁額の復元について

令和3年3月30日「首里城正殿へ展示する扁額の製作について」国と合意
→ 首里城正殿に展示する扁額3点を県が製作することについて合意。令和3年度より設計に着手

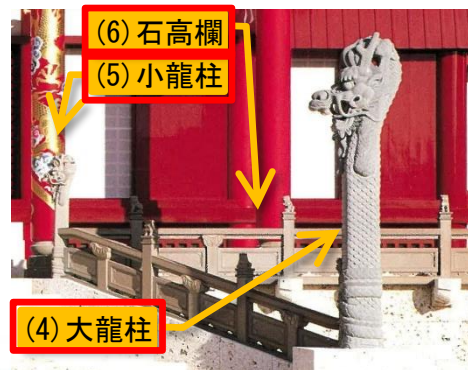
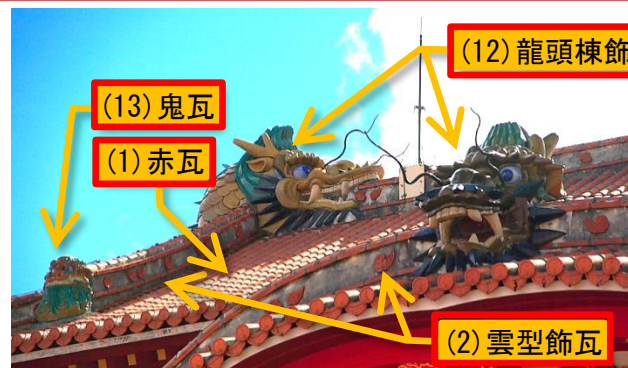
制作物の調達について

令和3年7月30日「首里城正殿に用いる制作物に関する覚書」を締結

→ 首里城正殿に使用する以下の制作物を県が調達することについて合意。

部位		種類	名称
木材	-	大径材	柱材(国産ヒノキ) 向拝柱材(イヌマキ) 小屋丸太梁材
	-	大径材以外	角材(化粧材・県産材) 板材(壁・天井・床)
赤瓦	(1)	赤瓦	瓦[正殿 約60,000枚] 金型・機材・環境整備
	(2)	瓦類	雲型飾瓦[約280個] (うんけいかざりがわら)
室内装飾	(3)	漆芸	扁額[3点] (へんがく)
屋外彫刻	(4)	石彫刻	大龍柱/台石
	(5)	"	小龍柱
	(6)	"	石高欄/持送石 (いしこうらん)
	(7)	"	礎石[105個] 礎盤[4箇所×3段]
	-	"	石階段/基壇正面石積
	(8)	木彫刻	懸魚(げぎょ)
	(9)	"	唐破風妻飾 (からはふつまかざり)
	(10)	"	向拝 透欄間 (こうはい すかしらんま)
	(11)	"	向拝 奥の彫刻物 (こうはい)
	(12)	焼物	龍頭棟飾[3個+胴体] (りゅうとうむなかざり)
	(13)	"	鬼瓦[4個] (おにがわら)
	(14)	"	磚[約1,500枚](せん)
室内装飾	(15)	布飾り	1階 御差床環珞 (うさすかようらく)
	(16)	造作・彩色	1階、2階 御差床台 (うさすかだい)
	(17)	造作・彩色	2階 御差床 (うさすか)

【凡例】 青字：R2までに国と協議済
赤字：今回国と協議予定



県で製作し首里城内で国へ引渡し(彩色や設置等の現場作業を含まない)

5 首里城復旧・復興推進本部会議 の開催

令和3年度 第1回会議
(R3.6.7) ※書面開催

【報告事項】

- (1) 首里城復興基本計画策定の経緯について
- (2) 首里城復旧・復興ワーキンググループ設置要綱の改正について
- (3) 首里城復興の進捗状況等について

【議事事項】

- (1) 首里城復興基本計画推進事業について
→ 首里城復興基本計画における基本施策の推進に向けた具体的な事業・取組として、「首里城復興基本計画推進事業(70件)」を決定

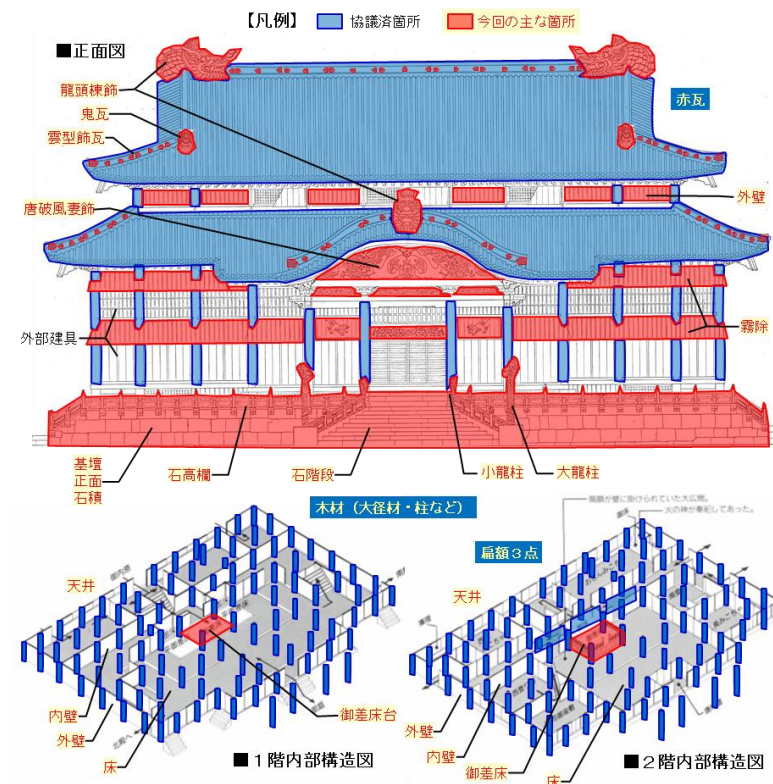


令和3年度 第2回 首里城復旧・復興推進本部会議

令和3年度 第2回会議
(R3.7.19)

【議事事項】

- (1) 首里城復興基金（寄附金）の正殿への活用事業について
→ 首里城復興基金（寄附金）を活用し、県が石彫刻等の制作物、木材（小径材、造作材）、赤瓦（せん瓦、雲型飾瓦）などを調達・製作することについて、国に協議を申し入れる旨を決定



6 県産木材（オキナワウラジロガシ）の候補木の選定・環境対策等について

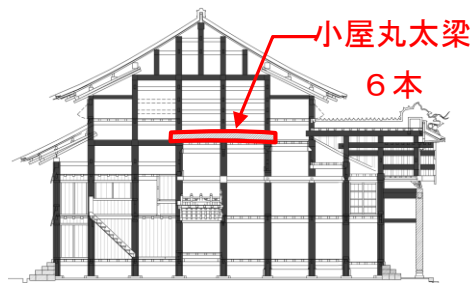
令和3年5月25日に、国の「首里城復元に向けた技術検討委員会 木材・瓦類ワーキンググループ会議」が開催され、沖縄県から県産木材（オキナワウラジロガシ）の候補木の選定方法や環境対策等について報告しました。

I. オキナワウラジロガシに関する経緯

令和2年3月27日に示された国の工程表では「往時の首里城に使用されていたと推定されているオキナワウラジロガシの活用が望ましい」、「使える材があった場合には、可能な限り活用する」とされ、沖縄県において県産材調査を実施いたしました。

II. 候補木の条件

首里城正殿の小屋丸太梁に用いるため、直径約47cm、長さ7mの材が取れるオキナワウラジロガシであり、かつ環境に配慮した伐採が可能なもの。



III. 現地調査

- 国頭村については、歴史的背景や地域からの要望を踏まえ、村有林内、県営林内の林道等から近接する範囲内で、胸高直径40cm以上で52本のオキナワウラジロガシを確認しました。
- 石垣市については、地元からの情報提供を受け、市有林内を地元の方の案内で、胸高直径50cm以上で19本のオキナワウラジロガシを確認しました。
- 現地調査にあたっては、関係機関とともに行き、環境影響や伐採時の懸念事項等の確認を行いました。



現地調査写真

詳細調査、集材方法などの情報は

「沖縄県公式首里城復興サイト」をご覧ください。

<https://www.shurijo-fukkou.jp/topics/1622008321/>

沖縄県 首里城復興



IV. 沖縄県における持続可能な取組

沖縄県では、持続可能な循環型林業の取組として、以下のとおり対応いたします。

1. 伐採後の対応

- 候補木の伐採跡地に、後継木となる苗高30cm程度のオキナワウラジロガシの苗木を植栽します。
- 植栽後10年間程度は、適宜、様子を見ながら、年1回の施肥下刈と下刈(無施肥)、除伐及び間伐を行います。



伐採後の苗木植栽イメージ

2. 県内の状況

- 沖縄本島の北部地域では、平成6年度からオキナワウラジロガシの植栽を約3ha行い、令和3年4月時点で約2千本以上の樹木の生育が確認されており、継続して保育管理を行ってまいります。
- なお、オキナワウラジロガシは琉球王朝時代に、杣山制度等で後世の首里城復元用の御用材等として植栽・管理されており、現在も沢谷い等で多く点在しています。



植栽後10年経過した造林地
平均樹高6m、平均胸高直径6cm



植栽後27年経過した造林地
平均樹高9m、平均胸高直径11cm

7 沖縄県工業技術センターによる首里城赤瓦の取組

●原土(クチャ・赤土)の確認:瓦製造に適している土質が想定される公共事業等でサンプル採取



※前回復元に用いた原土である粘性土が現在は無いため

●テストピースでの焼成試験の実施:原料配合(シャモットを含む)や焼成温度の変化による色味や収縮率等の確認 【3cm角のピース】



【15cm角のピース】

1030℃		シャモット配合		
クチャ:赤土		0%	5%	10%
8:2	クチャ 2割目配合			
	3割			
	5割			
7:3	7割			
	5割			
	7割			
6:4	5割			
	7割			
	5割			

1060℃		シャモット配合		
クチャ:赤土		0%	5%	10%
8:2	5割			
	7割			
	5割			
7:3	7割			
	5割			
	7割			
6:4	5割			
	7割			
	5割			



8 SCSK株式会社とのDX協定締結について



PRESS RELEASE

令和3年6月1日

沖縄県

SCSK株式会社



沖縄県とSCSK株式会社が 「首里城復興におけるDX推進に関する連携協定」を締結

沖縄県とSCSK株式会社は、首里城復興基本計画に基づき、相互の有する資源の効果的な活用と、緊密な連携及び協力により、首里城公園及び周辺地域においてデジタル技術を活用した新しいまちづくりの推進に寄与することを目的とし、「首里城復興におけるDX推進に関する連携協定」を締結いたしました。

連携・協力事項

- (1) 首里城公園及び周辺地域のさらなる魅力の向上
- (2) 暮らしと観光が両立したまちづくり
- (3) ニューノーマルにおける新たな観光施設のありかたの実現
- (4) 歴史を体現できる都市空間の創出
- (5) 段階的整備、見せる復興に関すること
- (6) その他、地域活性化の促進、地域社会への貢献等に関すること

連携協定の概要

首里城復興において、AIやIoTなどの最新デジタル技術を活用することで、来訪者の満足度向上や、地域交通渋滞の改善、ニューノーマルに対応した観光施設の運用など、首里城公園及び周辺地域の更なる魅力の向上や、暮らしと観光の両立したまちづくりの実現などの課題解決を通じ、地域社会への貢献に取り組んでいきます。

※SCSK株式会社の企業概要

グループで国内50拠点、海外9拠点到展開。従業員数は連結で14,550名。

東京都江東区に本社を構えるITサービス企業。 URL: <https://www.scsk.jp/>

※DX（デジタルトランスフォーメーション）:

デジタル技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革すること

締結の様子



↑ 協定書に押印するSCSK株式会社 谷原徹社長と玉城デニー知事



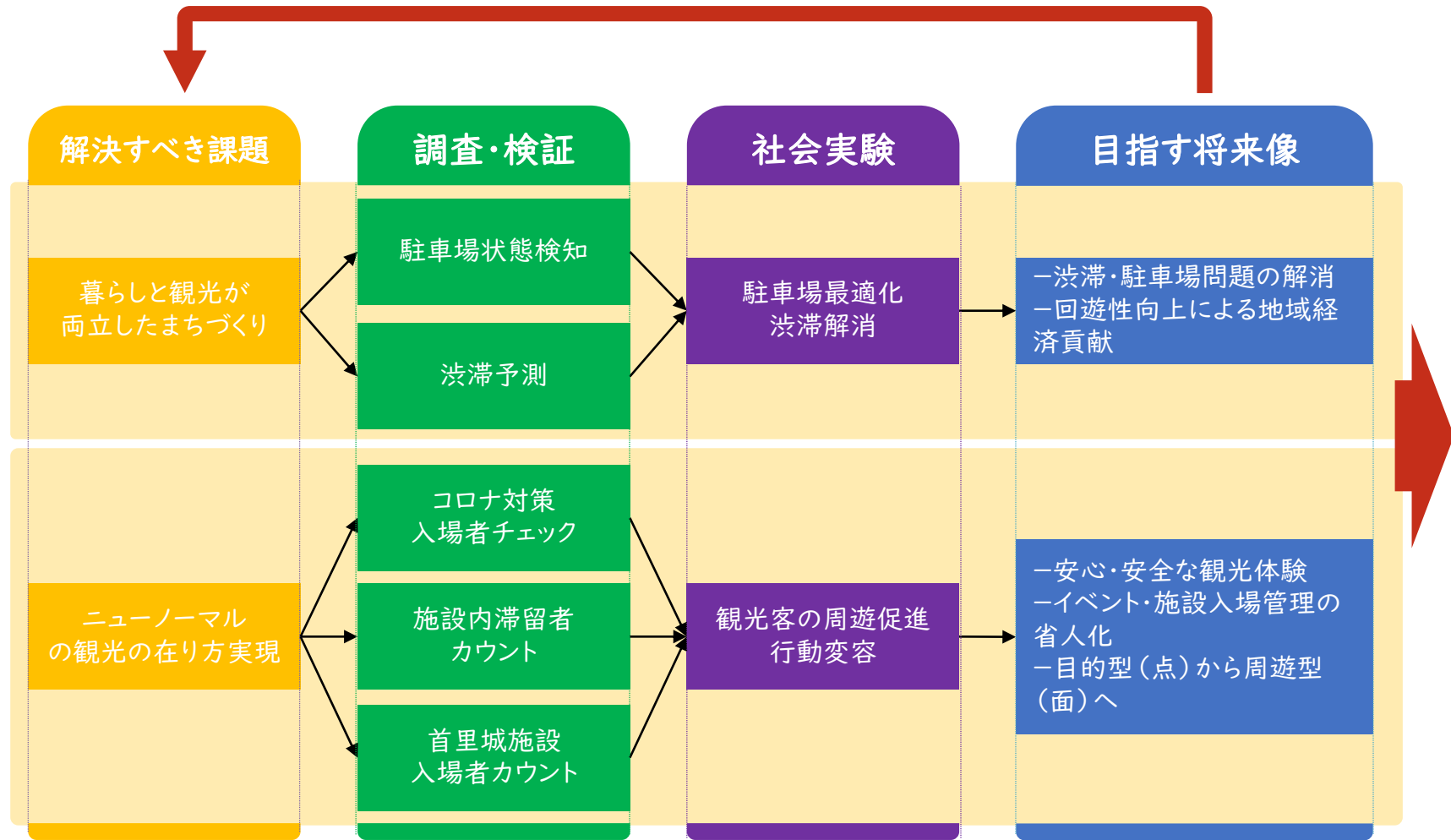
↑ 協定が締結され記念撮影を行うSCSK株式会社 谷原徹社長と玉城デニー知事



↑ 今回の協定締結に関してコメントを述べる玉城デニー知事

首里城復興におけるDX実現の進め方イメージ

目指す将来像と解決すべき課題からのバックキャスティングで
「DX:デジタルトランスフォーメーション」を実現

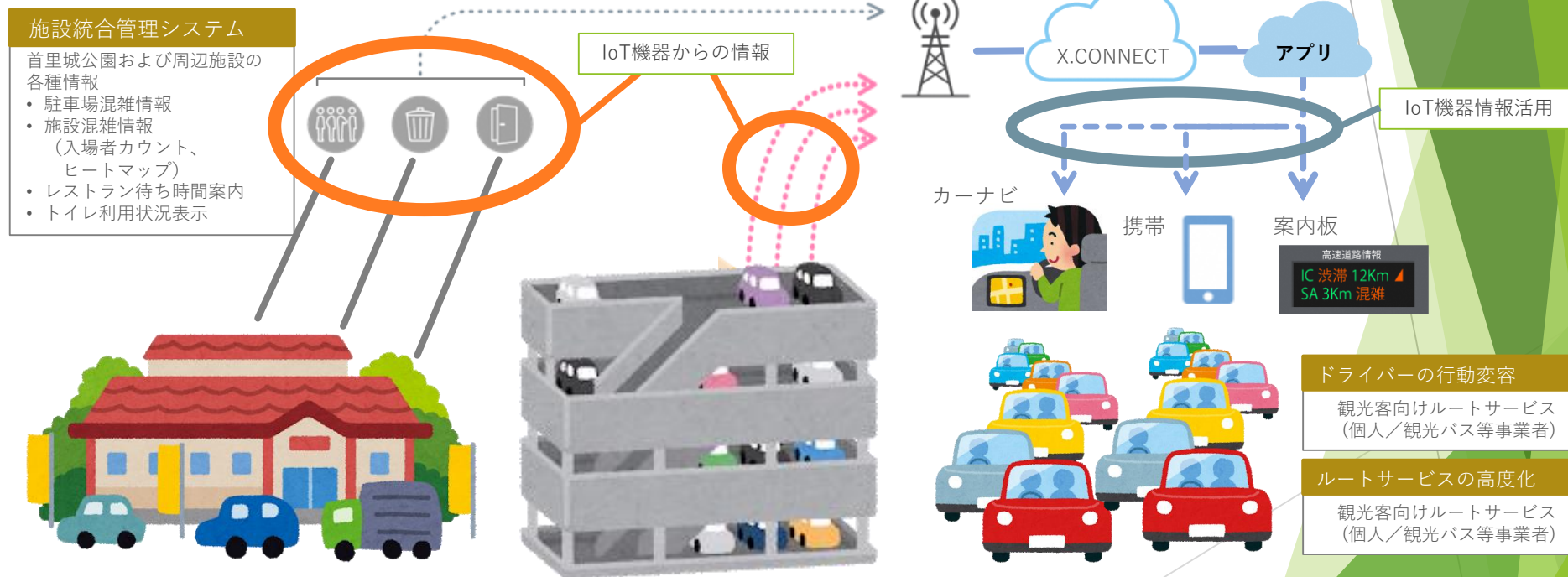


首里城復興における課題解決の継続的DX推進

※バックキャスティング:「未来のあるべき姿」(目指す将来像)から逆算して、改善を繰り返して実現を目指すこと。

◆くらしと観光が両立したまちづくり 渋滞・駐車場問題の解消：AI x IoT活用案

- ・ 駐車場情報に限らないIoT（センサー）の更なる活用による状況把握を起点とした行動変容・需要創出
- ・ 誘導情報を利用した施設利便性/運営効率の向上／新たなサービス提供



◆くらしと観光が両立したまちづくり 回遊性向上による地域経済貢献：AI x IoT活用案



01 訪れる

首里城観光の「わくわく」をアプリから。
お役立ち情報・お得情報など、旬な情報を提供して旅の計画をよりスムーズに。
また、当日現地での駐車場案内により
駐車待ちを緩和と渋滞回避を実現。
実質滞在時間／訪問観光地を最大化。

- スマートパーキング
- バスロケーションシステム

他自治体とのディスカッションの際にまとめたアイデアをもとに作成。
(他自治体では実行フェーズまでは進んでいない)



02 たのしむ

お気に入りの観光スポット、体験ツアーへ。
予約から、現地ナビゲーション、近場の
ベビールームやトイレ・ゴミ箱探しまで
アプリがお手伝い。観光スポットのQR
コードによるセルフガイドで新しい発見。
ゆいレールと施設入場券がセットとなっ
た1日間パスはスマートリストバンドで。

- LBS(位置測位)
- セルフ観光ガイド(動画/AR)
- 店舗・施設の空き状況(混雑度測定)
- ゴミ箱管理
- リストバンド(観光案内所で入手)
- 観光旅行客の動向解析



03 たべる・買う

沖縄そば食べ歩きで“すばじょーぐーの証”に挑戦。お店の混雑/換気
状況はアプリで確認。デジタルスタ
ンプを集めた特典や、スマートリス
トバンドによる決済も。

- LBS(位置測位)
- 店舗・施設の空き状況(混雑度測定)
- 店舗内の環境モニタリング
- デジタルスタンプ
- スマートライティング
- リストバンド(観光案内所で入手)
- 観光旅行客の動向・嗜好解析

<目的>

令和2年度の第三者委員会の報告を踏まえて県が策定した「首里城火災に係る再発防止策（基本的な方向性）」に基づく具体的な取組を進めていくにあたり、有識者等で構成する委員会を設置し、管理体制構築に関する検討を行う。

<検討事項>

※関係機関等と連携し、首里城公園全体で一体的に検討を行う。

1 首里城公園の管理体制構築に関する検討

→ R3：首里城公園管理体制構築計画の策定

… **全体** 再発防止策全体に関する検討

2 防災センター機能の再編に関する検討

→ R3：県営公園区域内の防災センターの整備方針の策定

… **ハード** 再発防止策①の具体的な検討
(防災・防火設備)

3 防災・防火設備等の運用体制の強化に関する検討

→ R3：防災・防火設備等の運用体制に関するルール等の策定

… **ソフト** 再発防止策②の具体的な検討
(防災体制など)

4 管理運営に関する制度の活用方法の見直しに関する検討

→ R3：管理運営に関する制度の活用方法の見直し（案）の作成

… **仕組み** 再発防止策③の具体的な検討

<委員会の構成員>

○委員（有識者）

公園計画、消防防災、建築防火、文化財、法律、地域・観光

○協力委員（関係機関等）

※構成の考え方：所有・管理・整備主体 + 消防

国（沖総局、公園事務所）

県（都市公園課、文化財課、防災危機管理課）

那覇市（文化財課、消防局）

① 目的と検討事項

首里城復興基本計画（R3.3）の基本施策6『新・首里杜構想による歴史まちづくりの推進』を目的とし、首里杜地区に関連する、国、県、那覇市の分野別計画と整合を図り、歴史まちづくりの目標や具体的な施策などを取りまとめた計画を策定する。

検討事項は首里杜地区における、○景観まちづくりに関すること。○交通環境の整備・改善に関すること。○文化資源の保存・整備・活用に関すること。○その他必要事項に関すること。

② 計画策定の意義

首里のまちづくりや首里城公園等の整備に関して、首里杜構想（S59）の理念と方針のもと進められてきたが、首里城公園の整備に比べ周辺のまちづくりの進捗が遅れており、観光客の増加による交通渋滞など受入体制の整備や観光スタイルの転換が課題となっている。

歴史まちづくりを推進し、地域課題の解決や首里杜構想を実現するためには、都市計画、交通、文化財、観光、商業、地域などの関係主体が、目標像を共有し、連携して取り組む必要がある。

各施策を本基本計画で取りまとめることで効率的かつ効果的な事業の実施が可能となる。

③ 計画期間

- ・本計画の計画期間は、2022年（令和4年）から2031年（令和13年）までの10年間とする。
- ・正殿の完成予定である2026年（令和8年）までを前期5年、それ以降を後期5年とする。
- ・基本計画は進捗管理と事業効果の検証を踏まえ、10年ごとに更新する。

④ 対象区域及び事業

首里杜地区内における事業及び首里杜地区に関連する事業

⑤ 主な施策の分野

文化財、景観、道路、交通、公園、観光、DX

⑥ 推進体制

令和3年度で首里杜地区整備基本計画を策定し、令和4年度以降は有識者、行政関係、地域団体、関係事業者で構成する「歴史まちづくり協議会（仮称）」を設置し、進捗管理等を実施する予定。

（構成についても令和3年度に検討）

首里杜地区範囲



目的と検討事項

現行の「中城御殿跡地整備基本計画」について、令和3年3月に策定した首里城復興基本計画に示された方針を踏まえ計画の見直しを行うとともに、今後の中城御殿跡地整備のあり方の検討を行う。主な検討事項は以下のとおり。

①中城御殿の展示計画の見直し（美術工芸品の保存管理）

- 城郭内で扱っていたオリジナルの美術工芸品等について、中城御殿で展示・収蔵する方向で検討を行う。
- 中城御殿の展示計画について、他館からの借用展示も視野に入れた検討を行う。
- 特別展示エリアの導入機能や必要規模等を踏まえ、適切な保存環境に対応できるよう建物形態等の再検討を行う。
- バックヤード機能について、従前の課題も踏まえた検討を行う。
- 管理運営体制については指定管理者制度の活用を想定しており、課題等について検討を行う。

②追加すべき導入機能の検討（修復機能）

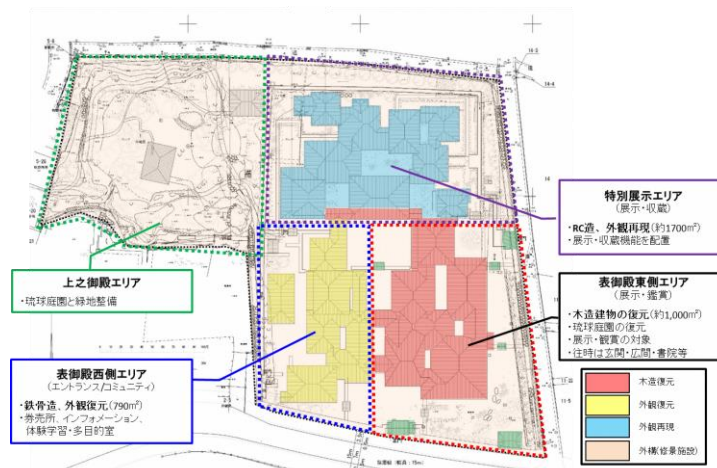
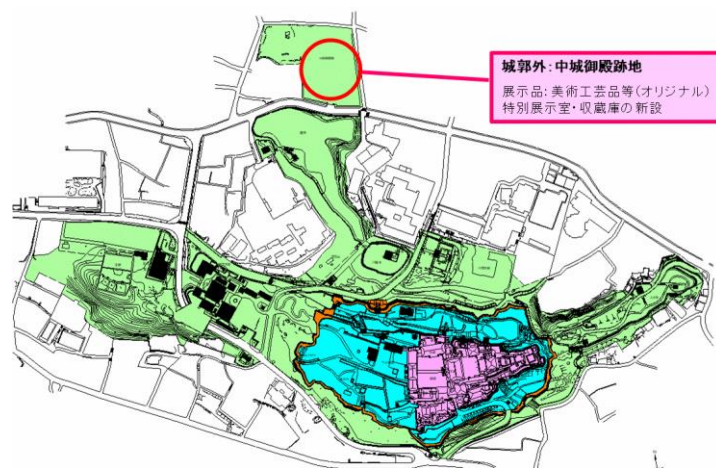
- 中城御殿における修復機能の追加について、必要性やスペースの確保等の課題の検討を行う。

③施設全体の防災・防火対策の強化

- 施設全体の防火対策・延焼対策に関して、国の技術検討委員会や県の首里城公園管理体制構築検討委員会の提言等を踏まえた検討を行う。

④公園全体の一体利用、魅力向上に資する利用の拡充

- 県営区域の各施設の魅力向上を図ることにより、公園全体の一体利用や首里地域への周遊促進を図る。



〈目的〉

- 首里城火災で焼失した正殿の二階に掲げてあった扁額3枚（ちゅうざんせいど しゅうずいきゅうよう えいそえいぜん中山世土・輯瑞球陽・永祚瀛壖）の製作に向けた課題、検討事項の整理を行い、その仕様や製作方法等を取りまとめ設計に反映させるため、首里城扁額製作検討委員会を設置する。

■検討委員会

- ・有識者・専門家5名（歴史・漆芸など）

■発 注

- ・沖縄県都市公園課

■設計業務（予定）

- ・業務期間：令和3年7月頃～令和4年3月

■製作（予定）

- ・扁額の製作と正殿御差床の装飾は職人が重複する可能性があるため、正殿御差床の装飾工事までに扁額を完成する。
- ・製作期間：令和4年度～令和5年度



〈今回製作にあたっての主な検討事項(想定)〉

◎文字・落款、きゅうしつ髹漆・加飾

前回製作時における検討経緯を整理し、さらに新たな知見の検討結果を加えて見直しを図る。

◎新たな知見の整理と反映

前回製作後、新たに確認された資料の整理を行い、設計へ反映。

◎県産材の活用

扁額に適した県産材の樹種及び流通状況の確認。

◎職人の確保

正殿建築工事の彩色工事にて、扁額製作の職人と重複する可能性があるため、作業時期の調整が必要。

◎扁額製作後の取付、保存、維持管理方法

重量物であることから取付方法の検討を行う。また、正殿完成前に扁額が完成することが想定されることから、それまでの保管場所・方法、さらに、設置後の維持管理についても検討を行う。

13 第32軍司令部壕保存・公開検討委員会 第3回会合 について

I. 令和2年度の状況(第1回:R3.1.22、第2回:R3.3.29)

前年度の会合(第1回・第2回)を踏まえた論点整理

〈基本方向〉

第32軍司令部壕は沖縄戦の実相を後世に継承していくために欠かせない貴重な戦跡であり、史実調査等により全容を解明したうえで壕内を公開し、平和学習等に活用していくとともに、文化財指定に向けて検討していく必要がある。

〈見えてきた課題〉

- ・公開するには安全対策や情報発信のための整備等が必要であるが、文化財に指定するためには実態調査のうえ、指定範囲については当時の状況のまま保存することが求められる。
- ・壕の保存には外気を取り込まない適切な管理が求められるが、公開するということは、劣化が進むおそれがある。

「保存と活用は矛盾する」

「公開しなければ壕の価値を伝えられない」(出典:南風原陸軍病院壕群Ⅰ 考古学調査報告書Ⅰ)

〈今後の取組〉

壕の全容解明に向け学術調査を続行しながら、公開に適した部分と文化財として保存していく部分を判定するための各種調査を段階的に実施する。その際、時間や予算を効果的に活用し事業を進めるため、各種調査実施箇所の優先度を検討する。

II. 先進事例・類似事例の視察(令和3年5月11日)



沖縄陸軍病院南風原壕群20号出口



旧海軍司令部壕

Ⅲ. 第32軍司令部壕の保存・公開に向けた検討事項

【議論のための前提】

- ◆ 沖縄戦の実相を後世に継承し、平和学習等に活用するため、第32軍司令部壕の公開を目指す。
- ◆ 安全性等を確保するため、公開には壕に対してある程度の改良を加えることが必要である。
- ◆ 改良の程度次第では文化財に指定できないことがあるため、場所によっては公開または保存（非公開含む）どちらかを優先しなければならない場合もあり得る。
- ◆ また、崩壊が進み安全性が確保できなかつたり、地上部への影響等により調査・公開することができない場所があることも考えられる。

立地・周辺環境

安全性

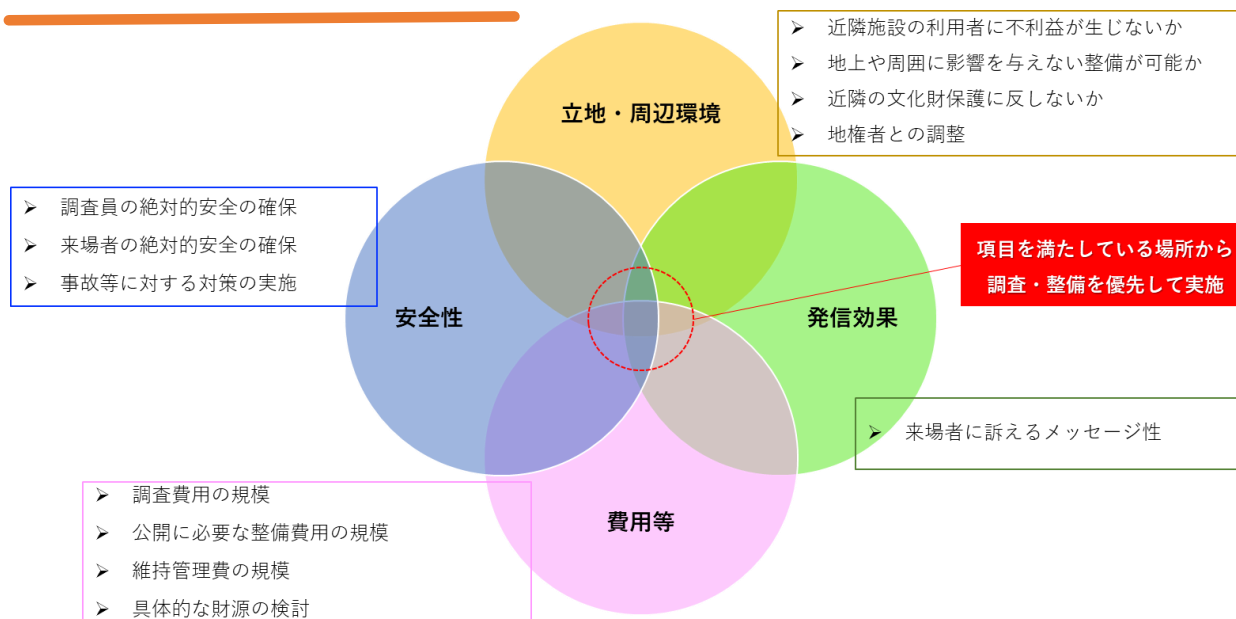
発信効果

費用等

【検討方法】

- ◆ 前提条件を踏まえたうえで、時間・費用等を効果的に充てるため、以上4つの観点を踏まえ、優先度が高い場所から段階的に調査等を進めることとする。

Ⅳ. 調査に向けた優先度の考え方



- ◆ 左図の中央に近い場所ほど公開できる可能性が高いため、優先して段階的に調査を進める。
- ◆ 公開することが難しい場所については文化財指定等による保存方法や、ICT等を利用した活用方法について検討する。

14 首里城復興基本計画について

首里城復興基本計画の施策体系

基本施策	施策の展開	施策の方向性	期間
基本施策 1 正殿等の早期復元と復元過程の公開	(1) 伝統技術を活用した施設整備	首里城の復元・修復を支える人づくり	中期
	(2) 木材、瓦等の調達に向けた取組	①県産木材の調達 ②首里城赤瓦に関する調査研究 ③県民をはじめ国内外から寄せられた思いを形にする取組	短期 短期 長期
	(3) 復元過程の公開による観光資源等としての活用	①正殿の復元過程を観る、学ぶ、楽しむことを実現する取組 ②首里城公園内の新型コロナウイルス感染症対策	中期 短期
基本施策 2 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化	(1) 再発防止に向けた防火設備等の強化	①想定される様々な火災要因を踏まえた新たな防火対策等の実施 ②首里城公園全体の防火対策の強化	中期 長期
	(2) 安全性の高い施設管理体制の構築	①首里城火災に係る再発防止策の策定 ②国等と連携した施設管理体制の構築	短期 中期
基本施策 3 首里城公園のさらなる魅力の向上	(1) 国営・県営区域の一体的利用	①首里城公園全体の魅力向上 ②中城御殿跡の整備と展示・収蔵等機能の拡充 ③県営公園区域内の文化遺産等の整備	中期 中期 長期
	(2) 多様で柔軟な施設の活用	首里城公園における多様な行催事等の推進	長期
基本施策 4 文化財等の保全、復元、収集	(1) 首里城跡の適正な保全と価値の周知	①正殿遺構の適切な保護及び公開 ②周辺文化財の情報発信	短期 中期
	(2) 文化財等の復元、修復及び収集	①被災した文化財等の修復、復元に対する支援 ②琉球王国時代の文化財等の調査研究、資料収集	中期 長期
基本施策 5 伝統技術の活用と継承	(1) 伝統的な建築技術の活用と継承	技術者の育成と活用	中期
	(2) 美術工芸における伝統技術の継承	①模造復元を通じたネットワークの構築 ②最新デジタル技術等を活用した技術伝承と文化の継承 ③文化財等保存修復技術の習得に関する体制の整備 ④工芸技術等の伝承者養成に向けた体制の整備	中期 長期 長期 長期

基本施策	施策の展開	施策の方向性	期間
基本施策 6 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進	(1) 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出	①「新・首里杜構想」及び「首里杜地区整備基本計画」の策定 ②推進体制の構築・充実・強化 ③歴史や文化を感じる景観まちづくりの推進	短期 中期 長期
	(2) 首里城公園及び周辺地域の段階的整備	①中城御殿跡や円覚寺等の歴史文化遺産の整備 ②御茶屋御殿等の地域に点在する文化資源の段階的整備に向けた連携	長期 長期
	(3) 交通環境の整備	①目標水準の設定 ②首里城公園の運営改善 ③首里城公園周辺での取組 ④安全で快適な歩行空間の整備	短期 中期 長期 長期
基本施策 7 歴史の継承と資産としての活用	(1) 多様で魅力ある観光資源の活用	歴史や伝統産業等の観光資源化	中期
	(2) 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信	歴史的価値を継承するための環境整備	中期
	(3) 次世代を担う子どもたちへの継承	歴史・文化を観て、学ぶことができる環境の整備	中期
基本施策 8 琉球文化のルネサンス	(1) 多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識	伝統芸能や伝統工芸等に触れる機会の提供	短期
	(2) 琉球文化の復興と新たな文化の創出	①琉球文化の普遍的価値の具現化 ②新たな文化創出機会の提供	長期 中期
	(3) 国内外へ向けた琉球文化の発信	①琉球文化を体感する機会の提供 ②最新デジタル技術等による発信	短期 中期
	(4) 琉球文化を活用した産業振興	①文化資源を有効活用したビジネスモデルの創出や商品開発 ②工芸産業拠点を活用した伝統工芸の魅力・価値の向上	中期 中期
復興基本計画の着実な推進	(1) 関係機関との推進体制の構築	国、那覇市等関係機関との連携等	
	(2) 国内外の学術ネットワークとの連携	学際的なネットワーク化に向けた支援	
	(3) 県民等の継続的な参加による復興	①県民等の参加機会の確保 ②県民等相互連携の仕組みづくり	
	(4) 効率的で効果的な復興の推進	①多様な復興財源の確保 ②計画の進捗管理	

